

科目名		建築設備施工Ⅰ			
担当教員		矢花 寧		実務授業の有無	○
対象学科	建築設備システム科	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数		時間数	48
授業概要、目的、授業の進め方	1. 座学→演習→レポート→添削指導を行うことにより、学習レベルを向上させる。 2. 建築設備技術者として、社会に出て即対応できるように基礎知識を身に付ける。 3. 公的資格を取得することを認識してもらい、そのために必要な事項を解説する。				
学習目標 (到達目標)	建築の企画段階から施工・維持管理に至るまでの建築設備の役割及び建築設備という領域と構成、建築設備の仕事についてを学習する。社会へ出て実務として展開できるように、また建築設備施工の一連の役割を習得する。主教材の他に、補助教材および配布プリントを利用して、計算手法・用語の理解を深める。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	1・わかる！建築設備 柿沼整三 著 (株)オーム社 2・図解2級管工事施工管理技士試験合格必勝ガイド新訂第2版 彰国社				
NO.	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	建築設備とは ①建築基準法と建築設備の役割 ②建築設備に関する法律用語			方法：配布資料・教材を使用して建築設備に関する法体系と基本用語を理解する。 準備学習：テキスト・教材の予習をする。	
2	人間と建築設備 ①生活における建築設備とのかかわり ②建築設備計画原論(空気・水・熱・流体・環境)			方法：教材・補助教材を使用して施工に必要な建築設備の関連性を理解する。②原論の基本事項を解説・理解する。 準備学習：テキスト・教材の予習をする。	
3	給排水設備 ①給水システム・給湯システム・衛生器具 ②排水通気システム			方法：教材・補助教材を使用して①②の項目・特徴を重要事項を解説し、理解を深める。 準備学習：テキスト・教材の予習をする。	
4	換気設備 ①換気システム ②排煙設備			方法：教材・補助教材を使用して①②の特徴・用語を解説する。過去問題を利用して基本事項を理解する。 準備学習：テキスト・教材の予習をする。	
5	空調設備 ①熱負荷・空気線図 ②空調方式			方法：教材・補助教材を使用して熱負荷・空気線図の理論を解説し、配布プリントにより空気線図理論を習得する。 準備学習：テキスト・教材の予習をする。	
6	中間試験			これまでに学習したことの確認試験 レベルの個人差が著しい場合には、適宜個人指導を行う。	
7	電気設備 ①電気の受給方式・弱電機器 ②電気の安全性			方法：教材・補助教材を使用して①②の項目の特徴を知り、電気設備の基本事項と電気災害を理解する。 準備学習：テキスト・教材の予習をする。	
8	熱源設備 ①熱源機器 ②新エネルギーシステム			方法：教材・補助教材を使用して①②の項目を解説する。②は新エネシステムの概念を解説し、理解する。 準備学習：テキスト・教材の予習をする。	
9	防災設備・図面 ①建築防災設備 ②建築設備に関する図面			方法：教材・補助教材を使用して①②の特徴を解説する。①の項目は実情に応じた設備を理解し、②は実施工図面を利用する。 準備学習：テキスト・教材の予習をする。	
10	最終試験			これまでに学習したことの最終試験	
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
平常点	課題・レポート	定期(中間・期末)試験		設備施工の用語・基本事項をしっかり身に付けるために、基本事項をきちんと理解する。他の教科と関連する項目が沢山あるので、それらの教材も利用して、理解度を高めていく。	
10 %	20 %	70 %	%		
成績評価基準は					
A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
実務経験教員の経歴		一級建築士として30年以上現場施工管理に携わり、設備設計一級建築士として8年以上設計監理業務に携わってきた。			